

令和3年度 第2回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和3年11月24日（水） 午前10時00分 開会
午後12時10分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 入月 一巳 ・教育長職務代理者 佐野 保仁
・教育委員 山本 純司 ・教育委員 望月 正宏 ・教育委員 望月 聡美
- 4 事務局等の出席者
町長部局 秘書政策監 小倉 弘規 総務課長 滝 基成
教育委員会事務局 学校教育課長 渡辺 雄治 生涯学習課長 近藤 利也
アルカディア課長 尾崎 龍次
- 5 協議事項
(1) 南部地区の小学校適正配置について
(2) 学校運営協議会について
(3) ICT教育の取り組み状況
(4) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 （佐野教育長職務代理者）

皆さん大変ご苦労様です。中学校の修学旅行が無事に終わり、12月に入り、もうすぐに小学校の修学旅行です。子どもたちも非常に楽しみにしているようです。高校生の保護者からも「南部町の修学旅行はどうなっていますか。」というお話をよく聞きます。非常に関心があるみたいで、「南部町ではこんなふうにしています。」と言うと、「それはいいことですね。」ということで、保護者も町の協力に対して非常に感謝をしているようです。

また、今日の新聞にGIGAスクール構想のことで、授業で不使用のところは2割もあるそうで、市町村によってICTの支援員さんや通信環境に非常に差があるためと書かれていました。南部町では教育に関して、理解をいただきありがたいと思っています。今日の総合教育会議も充実できるようお願いします。それではこれから始めます。

2 町長あいさつ

おはようございます。このところ感染が少なく非常に安どしているところですが、もうしばらく皆さんも気を付けてください。

町政の方では、今は自動車道が出来て風通しが良くなりました。企業も来ました。富士方面へ向かう橋も順調に進んでいます。残っている大きな問題は469号線です。今後、陳情へ行っていますが、この問題は行政というよりも、色々な大きなところから後押しがなければなりませんので、両県の知事、国会議員の方々と議員連盟を立ち上げ活発化しようと思っています。

このコロナ禍の中で、地方に移住して、仕事はリモートで出来るという話があります。地方移住希望者のアンケート結果を見ましたが、地方へ移住を考える人の割合は27%の人だそうです。残りの73%の人は、やはり都会が良いそうです。現実はこのような数字です。また、地方の活性化へどのようにして目を向けてもらうかが課題です。地方の良さをアピールするのは、医療と教育の2つです。この2つをアピールすることにより、少しはその動きを加速させることが出来ると思います。是非、皆さんと共に南部町の教育を確固たるものにして、アピールしていきたいと思っています。いろいろありますが、是非、よろしくお願いします。

3 教育長あいさつ

皆さん、おはようございます。外を見るとさわやかな天気、天高く馬肥ゆる秋という感じがぴったりです。馬と言いますと、道の駅なんぶに時々行きますが、道の駅の騎馬像の前で、何人もの家族連れの方が写真を撮っています。その光景を見るたびに「南部町の住民で良かった。南部町が誇りだ」と思っています。

本日は年度末を迎える時期で、年度のまとめと、来年度への展望ということで、大変忙しい時期だと思いますが、お集まりいただきまして有難うございます。第2回目を迎える総合教育会議ですが、今日の議題の方は、ご案内のとおり「南部地区の小学校適正配置について」「学校運営協議会について」「ICT教育の取り組み状況」が議題になっています。

4月以来、教育委員会に新しく入りまして感じることは、それぞれの学校、或いは教育委員会の中でも、それぞれの課が独自に動いているように見えますが、よくよく見ますと実は教育行政と言う町の大きな枠の中で、皆が動いている、全てのことがネットワークでつながっている、そんなことを日々感じている最近です。今日のこの会も、先ほど町長から話がありましたが、町の施策で教育を大事にする。そういう施策との整合性を図りながら、是非、皆さんには普段からの思いを活発に、ご自由に述べていただきながら、会議の方を進めることをできればと思います。そして、この会が一流の田舎町を目指している南部町のこれからの教育行政を推進する中で、充実した時間になればと思います。限られた時間の中ですが、よろしくお願いします。

4 議事

(1) 南部地区の小学校適正配置について

[初めに教育長が平成28年3月の「南部町立小学校適正配置に関する具申書」について説明し、今後の南部地区の適正配置について確認を図りました。]

(佐野委員) 富沢地区が統合して、南部地区の方も次は統合するのではないかと意識は持っていると思いますので、最初の計画どおり進めていければ良いと思います。ずるずる伸ばしていくと、何時になるのだろうと住民も思ってしまいます。先ほど、教育長より栄地区・睦合地区の以前のアンケート結果を言いましたが、統合に対する理解はある結果でしたので、非常に良かったと感じました。

(山本委員) 具申については、例えばアンケートを基にと、今後の子どもたちの減少数とか、色々なものを加味し、教育効果を踏まえ提言したことだと思います。B地区の栄の当時の結果数値は、おそらく睦合との統合の想定があった数値ではないかと思っています。以前の説

明会へ出席していた時に出席者から出た意見は、これだけ子どもたちの数が少なくなつて、学びを十分に享受できるのか？懸念としてありました。特に若い人たちはそのような懸念が強いと実感しています。先行したAグループ・富沢小学校の事例が1年を経過し、町民に知っていただいたので、可能ではないかと思います。また、各小学校でも昨年から学校運営協議会を発足させましたので、地域と密接したことを意識して行っていけば、ご理解を得られるのではないかと思います。

(望月(正)委員) 教育効果等を考えていくと、南部町の場合は町単教員が配置され、教育に対しての予算措置がされていますが、令和5年から栄小の複式が始まります。その点を考えてれば、子どもたちの教育効果を考え、また、スケジュール等を見ても遅らせることはどうなのかと思います。先ほど、以前行われたアンケート結果が述べられましたが、栄地区は48.7%で他の地区は過半数を超えている状況でした。その心情はすごく大事で、大切にしなければいけないが、複式が始まるような子どもたちの教育効果を考えていくと、このようなスケジュールになるのかと感じます。あと、統合前に富沢小学校で60%が統合すべきという回答がありましたが、その結果、統合後のアンケート結果が広報8月号で出ていました。非常に良い結果出した。中学校の時も、富河地区や万沢地区からは非常に遠いとか、色々ありましたが、統合後に保護者や子どもたちに聞くと、非常に良かったという意見が多く出ていました。

(望月(聡)委員) 私の周りの保護者は、いつ統合をするのかという意見ばかりです。家も5年生と3年生の息子が睦合小学校にいますが、5年生は15人、3年生は11人しかいなくて、男の子と女の子のバランスもすごく極端で、男の子が3人、女の子が8人でバランスが悪いです。色々な行事を見ていると、例えば運動会ではアツと言う間にリレーは終わってしまうし、音楽を楽しむ会でも、11人だと選曲も限られてしまいます。本当はもっと沢山の友達とも触れ合ってほしいと思う気持ちは、ほとんどの保護者が思っていることだと思います。ただ、少人数のメリットも感じています。事業がすごく丁寧で、わからない子がいると、先生が休み時間もその子に丁寧に教えてくれて、特に5年生になると算数とかが難しく、うちの子がつまずいた時にも一人ひとりのレベルがどうなのか見ていただきました。統合しても大人数になるわけではないので、心配はいらないかもしれませんが、少人数のメリットが統合後も受けられるか、保護者は気にしている面もあると思いますので、心配を取り除いてやれば統合に関しては、早く進めて欲しいと思う保護者が大半だと思います。

(山本委員) 自分の経験、体験から複式というのが子どもたちにとって、良いのかどうなのかと考えると、最大の課題は、話し合いが出来ない。対話が出来ない。討論が出来ない。そういう課題がどうしても出てきます。万沢小学校の時に学年2人というクラスがありました。授業などを見ていると、2人と教師1人でやり取りをしますが、やり取りが固まってしまう違う発想が出てこないのが大変です。今後、望まれるのは子どもたちが自分の力で、どう生きていくかという力を、どう付けていくためには、対話力が必要ですし、他と関わりながら新たな発想を造る力も現実に求められています。如何に色々な考えや意見等に対面するか、体験するかが時代的にも求められているというより、絶対に必要な時代になってきています。ICTが進みネットで出来るのでは、という説もありますが、そればかりをやっている訳にもいきません。顔を向き合わせる事が人間として大事な部分

であるということも一つの側面だと思いますので、そのような教育環境が私は必要だと思います。極力、複数で色々な意見が出るような教育環境を保障してあげる必要があると思います。

(秘書政策監) たしかに小規模クラスも適正化の基本的な考え方にもありますように、確かな学力という部分については、先生方の目が行き届くという観点からは、少ない方が良いという点があります。元々保護者や先生方から議会へ請願があがったときは、40人学級、それが今は35人学級、山梨県においては25人学級へと移行してきましたが、あまりにも小規模になってしまいますと、それぞれの弊害はありますし、本町においては既に、中学校の統合、A地区の統合と、町民が経験をしておりますので、ある一定の目標を設定したとしても、皆さんの理解はこれらの経験を基に得られるのではないかと考えられます。是非、その辺についても早めにスケジュールを住民の方にお示しをして、前に進めていくことが肝要ではないかと考えています。

(町長) 具申書が出されたのは平成28年度で、その時はもう少し早い統合が望ましいのではないかという思いがありましたが、この2年間のコロナ禍で考えが若干変わってきました。統廃合については、具申書のとおり令和8年度を目途に進んで欲しいと思います。私の中にある本町の町づくり施策には、中部横断の全線開通や新々富士川橋の建設等により、今後の交流人口は間違いなく増えます。そのため今年は、文化、教育、スポーツの聖地であるアルカディア総合公園に多くの人たちが集まっていただくための多目的広場を造りました。ここに訪れる家族層の方々に本町の魅力を感じていただき、移住へと結び付けたい思いがあります。

[町長の言葉を受けて、令和8年度を目途に統合を考えていくことを確認しました。]

[事務局より、令和8年度を目途にした場合のスケジュール案、また、通学区を考えていくための資料として地区別の年齢人口数を簡単に説明しました。]

(町長) 先ほど、町づくりの話をしてしまいましたが、統廃合した場合に廃校となる学校はその後も残し、地域の方の集まりの場所として活用していきたいと思っています。そして、2階、3階は防災の拠点として使っていきたい。

(山本委員) 災害については皆さん不安があります。各地区に分館はありますが、キャパシティの問題もあり、どのように機能するのか懸念されるところです。大きな防災の拠点がその地区にあれば、各地区とネットワークでつながりやすいのではないかと思います。

(町長) 話は変わりますが、合同の授業があると思いますが、現在の状況はどうですか。

(望月(正)委員) N授業ですが、昨年、今年とコロナ禍で休憩中ですが、N授業の中では少数学校の児童も気後れすること発言をしますし、子どもたちも直ぐに仲良く打ち解けます。また、この事業により中学校に入った時の中1ギャップの解消につながり、効果はあると思います。先ほど、コロナ禍で休憩中と言いましたが、ただ今、コロナが下火になっていることから12月8日に富沢小学校の体育館でふるさとカルタの競技会を予定しています。

(町長) 児童の数が少ない中、南部教育をどうしていくのか。一つのテーマとして、先ほど話がありましたが、例えば音楽の時、人数が少ないので楽曲も限られてしまう。難しいかもしれませんがカリキュラムの中で、運動会、文化祭等を合同で出来ないかなど一つの提案です。それが南部教育だと思います。

(望月(正)委員) 今までは、授業だけやっていましたが、今年はカルタを取り入れました。ただ、全学年併せて行う事になると、準備が難しい気がします。

(町 長) 特徴のある町の教育ということで言いましたが、難しいことはわかっています。私も職員の指導の中で、各課がありますが仕事内容に捕らわれないようにと言います。逆に、やることで大変ではありますが充実感が出てきます。

(秘書政策監) 特色のある教育をする町づくりになれば、自ずと他所からも魅力的に感じてもらえます。そのことにより、本町へ移住して来てくれる可能性も大いにあるような気がします。現場の先生方はとても大変なことになりますが、可能な限り特色を出せるものがあれば、積極的に取り組んでいただき、教育の町にしていただければ大変うれしいです。

(山本委員) 昨日、南部中の学校運営協議会がありましたが、その前に音楽発表会があり、学齢で中3になると、素晴らしい合唱になります。その時に小学生にも聞かせる機会があれば良いと思いました。ただ、これを行うにはカリキュラムを相当に工夫しなければならぬし、先生方の考えも色々あるので調整しなければなりません。先ほど政策監が言ったように、町としてどのような教育が可能なのかを模索していくことは、良い方向に進むのではないかと思います。

(望月(正)委員) 小学校6年生と中学校2年生で合唱の交流会として、OBの先生にお願いし、N授業の小中学校交流バージョンを計画しましたが、コロナ禍で中止になりました。また、機会があれば計画したいと思います。

(教育長) 南部町の大きな特徴の一つが教育支援センターだと思います。色々なことを考え計画してくれます。今、提言をいただいた特色ある南部教育により、特色ある南部町につながっていく。また、これからの南部町の発展に結びついていく。そのようになれば本当に良いなと思います。特色ある南部教育を念頭に置きながら、これからまた考えていきたいと思っています。

(2) 学校運営協議会について

[当初から南部中学校学校運営協議会の会長である山本委員より、今までの経過も含めて学校運営協議会について説明をしていただきました。]

(佐野委員) 学校運営協議会の様子を聞いて思ったことは、現在の町立学校の管理職には地元の方が少ないので、地域のことが良く分からないまま、学校の運営をしていかなければなりません。地域代表の方々は、保護者の意見、地域の意見を汲んで学校に上げていると思うので、校長・教頭の見えない部分の意見を出してくれます。南部町の教員の現状では、これから南部町出身者が少なくなるという現状で、今後、この協議会が増々重要になってくると思いました。是非、これから更に充実していければ、ありがたいと思います。

(3) ICT教育の取り組み状況

[学校教育課長より、ICT教育をするための教育委員会の取り組み状況及び学校が現在行っているICT教育の授業内容等を説明しました。]

(望月(正)委員) 今朝の新聞では、自分のスキル不足が一番で、次が指導者の不足でした。南部町を見ていると支援センターにICT支援員を配置し、委員会の事務方と相談しながら研修会の全てを企画、運営してくれました。アンケートの感想を見ても、ほとんどの先生

方が有効であったと答えています。

(山本委員) やはり支援センターに相談に乗ってくれる支援員がいることが学校にとっては安心感につながっていると思います。睦合小学校の先行事例が目の前にあるということで、富沢小、栄小にしても取り組みを間近で情報を得られるのは大きいのではないかと思います。使って見て、初めて次へのステップの予想が付きます。そう考えると良い連携が出来ているのではないかと思います。

(佐野委員) 学校の様子を聞くと低学年でも、年配の先生でも一生懸命頑張っていて、子どもたちに使わせているという話を聞きます。非常に頑張っていてありがたいです。ただ、これから使用機会が増える中で、ICTを使いたいじめとかをニュースで聞きますので、基本的なルールやマナーをしっかりと教える必要があると思いました。また、子育て講演会でカウンセラーの先生が言う事には、不登校になるのは自立神経失調症という病名は付くが、生活習慣病だということです。インターネット等にのめり込んでしまい生活習慣を崩す例が多々あるそうです。基本的な使い方でも指導する必要があると思いました。

(望月(聡)委員) この資料に載っている5年生のオンライン工場見学へ家の子も参加しました。栃木の工場とオンラインでつながっていて、質問をすると、直ぐに返事が返ってきたり、事前に大変立派なパンフレットと粗品が送られて来ていて、子どもたち一人ひとりに配られ、本当に子どもたちは喜んでいました。調べてみるとオンラインによる工場見学をしてくれる企業は増えています。遠くに見に行く動力は大変ですが、このようなオンライン見学はこれからもっと増えていくと思いました。3年生の次男はタイピングを朝、練習していると言って、既に早く出来るようになっていて、本当に子どもたちの吸収力はすごいと思いました。半面、先ほどお話が出たようにルールですとか、ネットいじめなど怖い部分も、親を含めて学校でも、口うるさく教えていかなければならないと思いました。

(4) その他

特になし

5 閉 会 (山本委員)

ご苦勞様でした。教育に関することが一流の田舎町の核になることが確認できたということが、ひしひしとと思いました。色々な意見の中で、色々な形が見えてくるような予感も致します。今後も教育行政に是非ご尽力いただき、ご理解いただければありがたいと感じました。本日はご苦勞様でした。